



# エンタープライズパラメータおよびサービスの設定

- [エンタープライズパラメータの概要 \(1 ページ\)](#)
- [サービスパラメータの概要 \(2 ページ\)](#)
- [システムパラメータのタスクフロー \(2 ページ\)](#)

## エンタープライズパラメータの概要

エンタープライズパラメータは、同一クラスタに存在するすべてのデバイスやサービスに適用されるデフォルト設定を提供します。クラスタは、同じデータベースを共有する Cisco Unified Communications Manager のセットで構成されます。Cisco Unified Communications Manager の新規インストール時には、エンタープライズパラメータを使用して、デバイスのデフォルトの初期値が設定されます。

エンタープライズパラメータの多くは、ほとんど変更の必要がありません。変更する機能を十分に理解している場合、またはシスコテクニカルアシスタンスセンター (TAC) から変更の指示がある場合を除き、エンタープライズパラメータを変更しないでください。

ほとんどの場合、推奨されるデフォルト設定で問題なく機能します。

- IP フォンのフォールバック接続モニタ期間を設定します。
- すべてのユーザに対して社内ディレクトリの検索を許可します。
- クラスタの完全修飾電話番号 (FQDN) と組織のトップレベルドメインを設定します。
- ビデオ対応の Cisco Jabber 開始条件を設定します。
- (オプション) ネットワークが IPv6 を使用している場合は、IPv6 を有効にします。
- (オプション) リモート syslog サーバ名前を入力します。
- (オプション) 導入をトラブルシューティングするためのコールトレースログを設定します。
- (オプション) 依存関係レコードを有効にします。

## サービスパラメータの概要

サービスパラメータを使用すると、選択した Unified Communications Manager サーバでさまざまなサービスを設定できます。すべてのサービスに適用されるエンタープライズパラメータとは異なり、個々のサービスが個別のサービスパラメータのセットを使用して設定されます。

サービスパラメータでは、次の2種類のサービスを設定できます。これらはいずれも Cisco Unified Serviceability 内で有効化できます。

- **機能サービス**：この種類のサービスは、特定のシステム機能を実行するのに使用されます。それらのシステム機能を使用するためには、機能サービスをオンにする必要があります。
- **ネットワークサービス**：ネットワークサービスはデフォルトでオンになっていますが、トラブルシューティングの目的でネットワークサービスの停止と開始（または再起動）を選択できます。この種類のサービスには、データベースやプラットフォームなどのシステムコンポーネントが正常に機能できるようにするサービスが含まれます。

サービスパラメータの [サービスパラメータ (service parameter)] フィールドの説明を表示するには、[サービスパラメータの設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで [?] アイコンをクリックするか、パラメータの名前をクリックします。



- (注) サービスを無効化すると、更新されたサービスパラメータ値は Unified Communications Manager に保持されます。サービスを再び開始すると、Unified Communications Manager がサービスパラメータを変更後の値に設定します。

## システムパラメータのタスクフロー

始める前に

Unified Communications Manager ノードとポート設定をセットアップします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">エンタープライズパラメータの設定 (3 ページ)</a> 。	Unified Communications Manager ノードの初期セットアップに必要なシステム全体のパラメータを設定します。
ステップ 2	<a href="#">エッセンシャルサービスのアクティブ化 (9 ページ)</a> 。	Cisco Unified Serviceability を使用するノードで、サービスをアクティブ化することができます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<a href="#">サービスパラメータの設定 (12 ページ)</a> 。	クラスタ内のパブリッシャ ノードとサブスクライバ ノードのサービスパラメータを設定します。

## エンタープライズパラメータの設定

導入環境に対するエンタープライズレベルのパラメータを編集するには、この手順を使用します。これを使用して、組織のトップレベルドメインまたはクラスタの完全修飾ドメイン名など、エンタープライズレベルの設定を指定できます。



- (注) Cisco Unified CM Administration でパラメータを編集する場合、新しい設定が Cisco Unified CM、IM and Presence Administration にも反映されます。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、**[システム(System)] > [Enterprise Parameters]** の順に選択します。

[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters) ] ウィンドウに、エンタープライズパラメータのリストが表示されます。

- ステップ 2** パラメータ設定を編集します。

パラメータに関する説明を参照するには、GUIでパラメータ名をクリックします。一般的なエンタープライズパラメータの詳細については、[共通のエンタープライズパラメータ \(3 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 3** **[保存 (Save)]** をクリックします。

- ステップ 4** **[リセット (Reset) ]** をクリックし、**[OK]** をクリックしてすべてのデバイスをリセットします。

- (注) ほとんどのパラメータでは、設定を保存した後でデバイスをリセットする必要があります。デバイスが登録済みである場合は、デバイスをリセットする前に設定の変更をすべて完了させることを推奨します。

システム内のすべてのデバイスプールをリセットすることで、すべてのデバイスをリセットできます。

## 共通のエンタープライズパラメータ

次の表に、組織のトップレベルドメインまたはクラスタの完全修飾ドメイン名など、エンタープライズ設定に使用される共通のエンタープライズパラメータを示します。詳細なリストを見

るには、Cisco Unified CM Administration の [システム (System) ] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters) ] メニューを使用します。

表 1: Cisco Unified Communications Manager の初期設定の共通エンタープライズパラメータ

パラメータ名	説明
<b>エンタープライズパラメータ</b>	
接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)	<p>クラスタ内の IP フォンがセカンダリ ノードに登録された場合に、このパラメータを使用して、プライマリ ノードが使用可能になった後、それがフォールバックして再登録される前に、IP フォンが待機する時間を設定します。このパラメータは、特定のセキュア Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータに対応するすべてのセキュアなデバイスに影響します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』 (<a href="http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html">http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html</a>) を参照してください。</p> <p>デフォルトは 120 秒です。</p> <p>変更内容を反映するには、すべてのサービスを再起動してください。</p>
<b>CCMAdmin パラメータ</b>	
[依存性レコードを有効化 (Enable Dependency Records) ]	<p>このパラメータは、トラブルシューティングに必要な依存関係レコードを表示するために使用します。システムの初期セットアップ中は、依存関係レコードを表示すると便利な場合があります。</p> <p>依存関係レコードを表示すると、CPU 使用率が急激に高まり、コール処理に影響を与える可能性があります。考えられるパフォーマンス問題を回避するために、システム設定の完了後は、このパラメータを無効にします。負荷の低い時間帯またはメンテナンス ウィンドウの間のみ依存関係レコードを表示することを推奨します。</p> <p>有効にするには、Cisco Unified Communications Manager の管理を使用して大半の設定ウィンドウからアクセスできる [関連リンク (Related Links) ] ドロップダウンリストから [依存関係レコード (Dependency Records) ] を選択できます。</p> <p>デフォルト : [False]</p>
<b>ユーザ データ サービス パラメータ</b>	

パラメータ名	説明
ユーザ検索をすべて有効にする (Enable All User Search)	<p>このパラメータを使用すると、姓、名、またはディレクトリ番号が指定されていない場合に、会社のディレクトリですべてのユーザを検索できます。このパラメータは、[Cisco CallManagerセルフケア (Cisco CallManager Self Care)] (CCMUser) ウィンドウでのディレクトリ検索にも適用されます。</p> <p>デフォルト：[True]</p>
<b>クラスタ全体のドメイン設定</b>	
[組織の最上位ドメイン (Organization Top Level Domain)]	<p>このパラメータでは、組織のトップレベルドメインを定義します。</p> <p>例：cisco.com</p> <p>最大長：255文字</p> <p>使用可能な値：英字の大文字と小文字、数字 (0～9)、ハイフン、ドット (ドメインラベルの区切り文字) を使用した有効なドメイン。ドメインラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベルの先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、cisco.lom といったドメインは無効です。</p>
[クラスタの完全修飾ドメイン名 (Cluster Fully Qualified Domain Name)]	<p>このパラメータに、このクラスタの1つまたは複数の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を定義します。複数のFQDNはスペースで区切る必要があります。アスタリスク (*) を使用して、FQDN内でワイルドカードを指定できます。例：cluster-1.cisco.com *.cisco.com</p> <p>このパラメータのいずれかのFQDNに一致するホスト部分があるURLを含む要求 (SIPコールなど) は、クラスタと接続されたデバイスにルーティングされます。</p> <p>最大長：255文字</p> <p>有効な値：FQDNまたは*ワイルドカードを使用した部分的なFQDN。英字の大文字と小文字、数字 (0～9)、ハイフン、ドット (ドメインラベルの区切り文字)。ドメインラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベルの先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、cisco.lom といったドメインは無効です。</p>
<b>IPv6</b>	

パラメータ名	説明
IPv6を有効化 (Enable IPv6)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager が Internet Protocol Version 6 (IPv6) をネゴシエートできるかどうか、および電話で IPv6 機能をアダプタイズできるかどうかを決定します。</p> <p>このパラメータを有効化する前に、すべてのノードのプラットフォームも含め、他のすべてのネットワーク コンポーネントで IPv 6を有効にする必要があります。それ以外の場合、システムは引き続き IPv4 専用モードで稼働します。</p> <p>必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [False] (IPv6 は無効です)</p> <p>次のサービスを再起動して IPv6 パラメータの変更を反映させると共に、IM and Presence Service クラスタ内の影響を受けるサービスを再起動する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager</li> <li>• Cisco IP Voice Media Streaming App</li> <li>• Cisco CTIManager</li> <li>• Cisco Certificate Authority Proxy Function</li> </ul>
<b>Cisco Syslog Agent</b>	
リモート Syslog サーバ名 1 (Remote Syslog Server Name 1)	<p>リモート Syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。サーバ名が指定されていない場合、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。このパラメータは、ログ用に Syslog サーバを使用している場合にのみ必須です。</p> <p>最大長 : 255 文字</p> <p>使用できる値 : 英字の大文字と小文字、数字 (0 ~ 9)、ハイフン、ドットを使用した有効なリモート Sylog サーバ名。</p> <p>接続先として別の Cisco Unified Communications Manager ノードを指定しないでください。</p>
<b>[Cisco Jabber]</b>	
ビデオとともにコールを開始しない (Never Start Call with Video)	<p>このパラメータは、ビデオ コールの開始時に、ビデオを送信するかどうかを決定します。すぐにビデオを送信せずにビデオ コールを開始するには、[True] を選択します。ビデオ コール中はいつでも、ビデオの送信開始を選択できます。</p> <p>このパラメータは、IM およびプレゼンス サービスの優先度をオーバーライドします。False に設定すると、IM およびプレゼンス サービスに設定されている優先度に従ってビデオコールが開始します。</p> <p>デフォルト : [False]。</p>

パラメータ名	説明
<b>SSO と OAuth の設定</b>	
IOS の SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)	<p>このパラメータは、制御された Mobile Device Manager (MDM) 導入環境で Cisco Jabber が IdP に対して証明書ベースの認証を実行できるようにする場合に必要です。</p> <p>[iOS 向け SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS) ]パラメータには次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [組み込みブラウザの使用 (Use Embedded Browser) ]: このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は SSO 認証に組み込みブラウザを使用します。このオプションにより、バージョン9より前の iOS デバイスのネイティブ Apple Safari ブラウザで、クロス起動なしの SSO を使用できるようになります。</li> <li>• [ネイティブブラウザの使用 (Use Native Browser) ]: このオプションを有効化すると、Cisco Jabber は、MDM 導入環境でアイデンティティプロバイダー (IdP) に対して証明書ベースの認証を実行するために、iOS デバイスで Apple Safari フレームワークを使用します。</li> </ul> <p>(注) 制御された MDM 導入環境である場合を除き、ネイティブブラウザの使用は組み込みブラウザを使用する場合ほどセキュアではないため、このオプションの設定は推奨しません。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>[デフォルト (Default) ]: 組み込みブラウザ (WebView) を使用します。</p>

パラメータ名	説明
更新ログインフローを使用した OAuth (OAuth with Refresh Login Flow)	<p>このパラメータは、Unified Communications Manager に接続するときに、Cisco Jabber などのクライアントによって使用されるログインフローを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [有効 (Enabled) ] : このオプションを有効にすると、クライアントで oAuth ベースの高速なログインフローを使用してすばやく効率的にログインできるようになり、たとえばネットワークの変更などによってログインし直す際にユーザが入力する必要がなくなります。このオプションを使用するためには、Expressway や Unity Connection (更新ログインフローが有効化されている互換性のあるバージョン) など、Unified Communications ソリューションのその他のコンポーネントからのサポートが必要です。</li> <li>• [無効 (Disabled) ] : このオプションを有効化する場合、従来の動作のままとなり、旧バージョンの他のシステム コンポーネントとの互換性が保たれます。</li> </ul> <p>(注) Cisco Jabber を使用したモバイルおよびリモートアクセスの導入環境では、更新ログインフローで oAuth をサポートする、互換性のある Expressway バージョンでのみ、このパラメータを有効化することを推奨します。互換性のないバージョンは、Cisco Jabber の機能に影響する場合があります。サポートされているバージョンおよび設定要件については、特定の製品のドキュメントを参照してください。</p> <p>これは必須フィールドです。 デフォルトで、ディセーブルになっています。</p>



パラメータ名	説明
RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)	<p>このパラメータは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 用に SAML SSO を有効化するために設定します。</p> <p>[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータには、次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [True]: このオプションを選択すると、RTMTは、SAML SSO ベースの IdP ログイン ウィンドウを表示します。</li> </ul> <p>(注) 新規インストール時には、[RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータのデフォルト値は [True] になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [False]: このオプションを選択すると、RTMTは、基本認証のログイン ウィンドウを表示します。</li> </ul> <p>(注) [RTMTでのSSOの使用 (Use SSO for RTMT)]パラメータがないCiscoユニファイドコミュニケーションマネージャのバージョンからアップグレードする場合、新しいバージョンに表示されるこのパラメータのデフォルト値は [False] です。</p> <p>これは必須フィールドです。 デフォルト: [True]。</p>

## エッセンシャルサービスのアクティブ化

クラスタ全体でサービスをアクティブ化するには、この手順を使用します。

パブリッシャ ノードとサブスクリバ ノードで推奨されるサービスの一覧については、次のトピックを参照してください。

- [パブリッシャ ノードに推奨するサービス \(10 ページ\)](#)
- [サブスクリバ ノードに推奨するサービス \(11 ページ\)](#)

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。

**ステップ 2** ドロップダウンメニューから [サーバ (Server)] を選択して、[移動 (Go)] をクリックします。

サービスと現在のステータスが表示されます。

**ステップ3** 必要なサービスをアクティブ化または非アクティブ化します。

- サービスを有効にするには、有効にするサービスの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- サービスを無効にするには、無効にするサービスの隣にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ4** [保存 (Save) ]をクリックします。

サービスのアクティブ化が完了するには数分かかることがあります。ステータスの変更を確認するには、ページを更新します。

## パブリッシャノードに推奨するサービス

次の表に、専用でない TFTP サーバを使用している場合に Unified Communications Manager パブリッシャノードに推奨するサービスを示します。

表 2: 専用ではない TFTP サーバの導入環境に推奨するパブリッシャノードサービス

タイプ	サービス名
CM サービス (CM Services)	Cisco CallManager
	Cisco Unified Mobile Voice Access Service
	Cisco IP Voice Media Streaming App
	Cisco CTIManager
	Cisco Extended Functions
	シスコ クラスタ間検索サービス
	シスコ ロケーション帯域幅マネージャ
	Cisco TFTP
CTI サービス	Cisco IP Manager Assistant
	Cisco WebDialer Web Service
CDR サービス	Cisco SOAP - CDRonDemand サービス
	Cisco CAR Web Service
データベースおよび管理者サービス	Cisco Bulk Provisioning サービス
	AXL Web Service
	Cisco URL Web サービス

タイプ	サービス名
パフォーマンスおよび モニタリングサービス (Performance and Monitoring Services)	Cisco Serviceability Reporter
	Cisco Certificate Authority Proxy Function
ディレクトリ サービス (Directory Services)	Cisco DirSync



ヒント 以下のサービスは、使用する予定がなければ安全に無効化することができます。

- Cisco Messaging Interface
- Cisco DHCP Monitor サービス
- Cisco TAPS サービス
- Cisco Directory Number Alias Sync
- Cisco Directory Number Alias SyncCisco Dialed Number Analyzer Server
- Cisco Dialed Number Analyzer
- Self Provisioning IVR

## サブスクライバノードに推奨するサービス

次の表に、専用ではない TFTP サーバを使用している場合に Unified Communications Manager サブスクライバノードに推奨するサービスを示します。



ヒント その他のサービスは、使用する計画がなければ安全に無効化できます。

表 3: 専用ではない TFTP サーバの導入環境に推奨するサブスクライバノード サービス

タイプ	サービス名
CM サービス (CM Services)	Cisco CallManager
	Cisco IP Voice Media Streaming App
	Cisco CTIManager
	Cisco エクステンション モビリティ
	Cisco Extended Functions
	Cisco TFTP

クラスタ内の各 IM and Presence Service ノードで次のサービスをアクティブにする必要があります。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine
- Cisco XCP Connection Manager
- Cisco XCP Authentication Service

## サービスパラメータの設定

ノードのサービスパラメータは、Cisco Unified CM Administration を使用して設定できます。クラスタ全体としてマークされているサービスパラメータは、クラスタ内の全ノードに影響を及ぼします。



**注意** サービスパラメータの一部の変更は、システム障害の原因になることがあります。変更しようとしている機能を完全に理解している場合と、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更の指定があった場合を除いて、サービスパラメータに変更を加えないようにしてください。

### 始める前に

- Unified Communications Manager ノードが設定されていることを確認します。
- サービスがアクティブであることを確認します。詳細については、[エッセンシャルサービスのアクティブ化 \(9 ページ\)](#) を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。

**ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストのノードを選択します。

**ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウンリストのサービスを選択します。

**ヒント** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの ? アイコンをクリックして、サービスパラメータのリストと説明を表示します。

**ステップ 4** [詳細設定 (Advanced)] をクリックして、すべてのパラメータのリストを表示します。

**ステップ 5** サービスパラメータを変更し、[保存 (Save)] をクリックします。

ウィンドウが更新され、サービスパラメータ値が更新されます。

[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックすると、すべてのパラメータが、[パラメータ値 (Parameter Value)] フィールドの後に表示される推奨値に更新されます。パラメー

タに提案値が設定されていない場合は、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックしてもサービスパラメータ値は変更されません。

## クラスタ全体のサービスパラメータ設定の表示

[Cisco Unified CM Administration (Cisco Unified Communications Manager Administration)] および Cisco Unified Serviceability を使用して、クラスタ内のノードのサービスのステータスを表示できます。サービスパラメータ設定およびパラメータの説明を表示するには、[Cisco Unified CM Administration (Cisco Unified Communications Manager Administration)] を使用します。

### 手順

- ステップ 1** サービスを表示し、[Cisco Unified CM Administration (Cisco Unified Communications Manager Administration)] を使用して、ノードのサービスパラメータ設定を表示するには、次の手順を実行します。
- [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
  - [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[サーバ (Server)] ドロップダウンボックスのノードを選択します。
  - [サービス (Service)] ドロップダウンボックスのサービスを選択します。  
選択したノードに適用されるすべてのパラメータが表示されます。[クラスタ全体のパラメータ (一般) (Clusterwide Parameters (General))] セクションに表示されるパラメータは、クラスタ内の全ノードに適用されます。
  - [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの (?) アイコンをクリックし、サービスパラメータと説明のリストを表示します。
- ステップ 2** クラスタ内の全ノードに関する特定のサービスのサービスパラメータを表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンボックスの [すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] を選択し、[Go] をクリックします。  
[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。表示されているサーバ名またはパラメータ値をクリックして、関連する [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウを開くことができます。
- ステップ 3** クラスタ内の全ノードに関する特定のサービスの同期外れサービスパラメータを表示するには、[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンボックスの [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] を選択し、[Go] をクリックします。  
[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。表示されているサーバ名またはパラメータ値をクリックして、関連する

[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration) ] ウィンドウを開くことができません。

---